事例No.	2580
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	群馬県立利根実業高等学校食品文化部

事例区分	地域活性化

タグ	・教育・子育て ・関係人口 ・観光

事例種類	地域資源の活用

事例内容・タイトル

群馬県立利根実業高等学校食品文化部

出典

平成27年度ふるさとづくり大賞事例集

群馬県立利根実業高等学校食品文化部　群馬県沼田市

概　　要

市がB級グルメ研究事業を立ち上げ、特産である枝豆の活用の検討を当学校に依頼。生徒が主体となり、枝豆入りのメンチカツ「えだまメンチ」を開発。えだまメンチ普及のため、生徒達は市内の飲食店に営業を行い、取扱店舗を市内17店舗まで増やしたほか、市や企業と連携し、学校給食提供を実現。加えて県内外のイベントにおいても、生徒達が実演販売し、広くPRに努めている。



評価された点

・学校教育と地域の特産品開発の成功事例として評価できる。こういった活動は今後の地域づくりに取り組む上で大変重要なことであり全国各地に広がってもらいたいと思う。
・行政と高校の取組が、市内の事業者や小中学生へと連携が広がり、市を代表する事例への進化を評価。
・生徒が主体となり。地元の特産である枝豆を活用した新たな商品を開発し、地元のお店を動かしたり、市や企業と連携して市内小中学校の学校給食提供をし、地産地消に寄与している点は大いに評価できる。また、高校の魅力化による地域活性化は今後のふるさとづくりにおいて重要な点である。
・高校生の取り組みを、まち全体で応援し若者のチャレンジを支えている姿が背景に見える。高校生世代を地域で多様な活動を展開することは非常に重要であり、表彰に価する。



西岬海辺の里づくり協議会　千葉県館山市

概　　要

集落に１軒残る茅葺き民家を、大学の建築まちづくり研究室と地元コミュニティが一緒になって、５年かけて葺き替えた。毎年、10人程度の学生が泊まり込んで、茅葺き民家ゴンジロウの屋根を葺き替えてきた。留学生も参加している。2013年に廃屋の炊き場をコミュニティキッチンにし、2015年に主屋の台所を土間に戻した。ゆっくり変わり続けるゴンジロウが活動の輪を広げている。



評価された点

・地元大学が継続して地域と取り組んだ事例であり、急がずゆっくり成果を出してきたことは今後のまちづくりに、大きな参考となる。
・集落と大学の連携が年々深まり、研究室ＯＢのＩターンや留学生との交流に進化している。キーワードの「ゆっくり」は全国各地の風土と親和性が高く、参考になると考えられる。
・「古民家をゆっくり改修し続け」ながらの地域づくりに大いに共感。
・この動きをもっと全国的に広げて、茅場や葦場やエコの知恵につなげてほしい。大切な観光資源。

